

## 第32回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録

- 1 日 時 平成27年8月19日（金） 午後1時半～午後5時
- 2 場 所 鳥取県庁第21会議室
- 3 出席者 出席者名簿のとおり（ただし評価委員5名中、岡空委員が欠席）
- 4 会議の概要

### （1）平成26年度評価の決定について

#### ア 審議結果

- ・議長が委員長案（資料1, 2）を諮り、1か所を字句修正した上で、出席委員の全員一致により決定。

【修正箇所】資料1の3ページ、上から5行目「中期計画」を「中期・年度計画」に修正。

#### イ 評価委員の主な意見

- ・5段階評価は昨年と同じ「4」だが、今年は3に近い4点である。項目別評価の加重後平均は「3.73」で、昨年より1点近く低くなった。
- ・報告書の記述を再考し、経営陣のリーダーシップに基づく結果重視の活動が伝わるような形で示してほしい。自己評価をもっと深掘りし、自らの課題を明らかにすること。
- ・センターの活動を通じて得たビッグデータを活用すること。そうすればもっと企業にマッチした目標や手段が見えてくる。
- ・センターの活動、経営が見えない実績報告書である。もっと積極的に前向きに見せていただきたい。
- ・現場では企業と密着した有効な活動ができているが、組織として体系だって機能していない。一因としては、現場での成功事例や失敗事例をセンター全員で共有し、さらに向上しようという取組が弱いのではないか。  
→（センター）現場の取組を評価していただきうれしく思う。経営側の見せ方については、反省をして見直してみたい。
- ・成功事例の中から失敗事例を引き出して共有し、次につなげること。成功でも失敗でも「なぜ」を繰り返し意識し、共有することで変わっていく。

### （2）第2期中期目標期間評価の決定について

#### ア 審議結果

議長が委員長案（資料3, 4）を諮り、出席委員の全員一致により決定。

【修正箇所】なし

#### イ 評価委員の主な意見

- ・外部資金の導入や技術支援については評価できる。今後は企業のレベルアップに合わせセンターの研究開発力をさらに高めるとともに、機器設備の中長期的更新計画を作成し、剰余金の有効活用を図ってほしい。

(3) 財務諸表の承認に係る意見聴取

- ア 審議内容 資料5に基づき事務局より説明。  
イ 主な意見・質疑 特になし

(4) 中期目標期間最後の事業年度の剰余金（利益）処分に係る意見聴取

- ア 審議内容 資料6に基づき事務局より説明。  
イ 主な意見・質疑

- ・余剰金の使途について明確に示されているか。  
→（事務局回答）細かい使途はないが、年度計画の中に設備等の更新・維持に充当することが示されている。
- ・第2期までに年間業務費の半分以上にのぼる剰余金が出ている。中長期的な機器等の更新・維持のほか、戦略的に仕掛ける経費など、是非無駄遣いでなく有効に使ってもらいたい。

(5) 前回評価委員会の指摘事項について

○主な意見・質疑

- ・（「26年度実績分析データとの対比表」について）  
こうしたデータが示してもらえるとセンターのことが体系的にわかるし、センターも方向性が明確になってくると思う。さらにデータを活用すれば、県商工労働部を動かすような提言も可能になると思う。

(6) その他

①第3期中期目標期間に係る評価基準の見直しについて

評価基準の見直しにあたり、評価委員から意見聴取。いただいた意見をもとに、次回までに事務局で案を作成することとなった。

○主な意見・質疑

- ・（評価ウエイトについて）ウエイトは本来の目的に基づいて決めるものであり、評価委員に限らず、センター内部で共有することが重要。山口県や産総研のようにわかりやすいことが最優先。
- ・（評価単位について）技術相談と依頼試験分析が小項目に後退した形になっているが、センターの主要な業務なので、見せ方として中項目に格上げしたほうがいい。
- ・（5段階評価の判断基準について）数値目標の達成割合（「4」は110%以上など）の記載は削除すること。
- ・（意見申立ての扱いについて）事実確認のみとすること。
- ・（期間評価の評点について）4年間の点数を単純平均するのではなく、特記事項があればプラスマイナスできるよう裁量を持たせることとする。
- ・（期間評価の記載方法について）課題と改善事項を区別して記載しにくいいため、項目を統一し、まとめて記載できるようにすること。
- ・（実績報告書の様式について）センターの報告書が「評価の視点」に引っ張られて、それについてだけの記載となっている。評価の視点は必要ないのではないか。